

【水の作文大賞】 水のない生活

氷川中学校 二年 村上 遥

ある日突然、水が出なくなりました。朝の出来事でした。父が「水が出ない。」と言いました。私には何が起きたのかわかりませんでした。立神地区の放送「水道管が破裂しました」で状況が理解できました。状況は理解できても、水のない生活がどれほど不便なのか、まだわかっていませんでした。食器を洗えないので、紙コップや紙皿でごはんを食べました。流すことができないので、トイレに行くこともためらいました。水が出ないとこんなにも不便なのだと感じました。水が出ないことでイライラした私は「なんで朝から工事するんだ。」「早く終われ。」といらだつてきました。今思えば工事をしている人たちに失礼だったと反省しています。

このできごとをきっかけに「水」について改めて考えることができませんでした。いつも当たり前のように水を飲み、食器を洗い、トイレに行き、お風呂に入っています。水が使えることによって生活が成り立っているのです。水を当たり前に使っている今の時代、水を必要以上に使っても、水の大切さを感じていない人がたくさんいます。自分もその一人でした。でも、今は違います。水が突然出ない生活を体験したことによって、水の大切さを実感することができました。きれいな水を使って生活している今に感謝していきたいと思います。

私の家の前には大きな川が流れています。町や学校の名前にもなっている「氷川」です。一年中豊かな水量で流れ、八代平野を潤しています。八代では農業が盛んに行われていますが、それはこの氷川の流れるからです。

氷川中学校の校歌の最初も「氷川の流れ」から始まります。「氷川」は昔から、私たちの生活に欠かせない存在でした。四季の変化も感じるこ

とができます。冬になると、渡り鳥が毎年やって来ます。渡り鳥を見ると冬を感じられます。暖かくなると、いつの間にかいなくなり、桜の花が川沿いに咲きほこります。春の訪れを感じるができます。窓を開けていると、川の流れる音や、外で散歩をしている小さな子たちの声を聞くことができます。その声を聞くだけで、心が落ちつきます。氷川の流れは四季の変化や、川の音など、様々な形で私の生活に深く関係していました。近すぎて当たり前になっていた氷川が自分の生活にも潤いを与えていたことがわかりました。

日常生活の中で水の出ない生活を送ったことと家の前にある川の役割を考えたときに、「水」の存在がいかに大きく大切なものであるのかを考えることができました。これからも水の大切さを忘れないように、そして水を守るために自分のできることをしていきたいと思います。たとえば、歯磨きをするときはコップ一杯の水ですませる、顔を洗う回数を決める、手を洗うときは出しっ放しにしない、などちょっとした日常の生活でできることがあります。それらを自分だけではなく周りの人と一緒にすれば水を守ることに大きくつながっていきます。でも、それを続けていかなければ意味がありません。続けていくことでそれが当たり前なことになります。最初はめんどくさいかもしれませんが、でも、水のない生活を考えると大変なことではないと思います。これから先もずっときれいでおいしい水を使うためにも一人一人が水の大切さを意識して「水を守る」という強い気持ちを持つことが重要です。

水は私たちの生活になくてはならないものです。目の前を流れる氷川がこれからも変わらず、私たちの生活を守ってくれるように私たちも水を守っていききたいと思います。